



## 埼玉地本、第2移動警戒隊と共に災害サバイバル展に出展



埼玉地本（本部長 1等空佐 山下真司）は、11月1日（日）、狭山市立博物館（埼玉県狭山市）が開催する企画展「私たちの災害サバイバル展」に第2移動警戒隊の支援を得て出展した。

本企画展は狭山市立博物館の担当者が昨年の狭山市における台風被害を受け、防災をテーマに企画されたもので、9月26日～11月29日の間、開催されている。埼玉地本の参加は、博物館企画担当者から「自衛隊公式ライブハックチャンネルで紹介されている防災テクニックを是非披露してほしい」と熱い要望があり実現した。

これを受けて、埼玉地本では近隣の入間基地、第2移動警戒隊の支援を得て、水タンク車、炊事車の展示を行ったほか、博物館内特設ブースにて、陸海空それぞれの自衛官が災害時に役立つロープワーク等を伝授した。当日は近隣住民が多く来場し、第2移動警戒隊の装備品を興味深く見学したほか、ロープワークの実演と体験に参加した。

特に昨年の台風による水害の記憶も新しく、「この技術はどんな場面で使うのか。」等、来場者から多くの質問が寄せられ、質問者に体験してもらいながら実場面での使用方法を回答していく様子が見られた。

埼玉地本では今後も地域の要望に応じ自衛隊が持つ防災のためのノウハウを積極的にPRしていきたいとしている。

## 越谷ロータリークラブで防衛講話

本講話は、会員に対し現在の安全保障環境に関する啓発活動の一環として行われた。参加者は、会場に五十五人、コロナ禍ということでオンラインにより十一人が参加した。

山下本部長は、「自衛隊の現状と我が国周辺の安全保障環境」と題し、初めに最近のトピックスとして三つ、①イギリス・アシヨア代替案について、②中国公船による尖閣諸島周辺の最近の活動について、そして③中国の太平洋進出の布石について説明した。また、自身のこれまでの経歴の中で特異な経験をしたイラク人道復興支援活動で派遣されたカタル・アル・ウティド空軍基地及びブイス・ジュネーブの軍縮会議日本政府代表部での経験談を交えながら各国の国情等についても説明した。最後に災害に備えた自衛隊の態勢と昨今の活動状況について紹介した。参加者からは「普段聞くことができない話を聞く貴重な時間を得た」「自衛隊が常に備えてくれて安心できる」とともに、時間が短かったこともあり、「別の機会に再度講話をお願いしたい」との依頼もあり、盛況のうちに終えた。

埼玉地本は「今後とも防衛講話を通じ、自衛隊への更なる理解促進を図りたい」とコメントする。

